

「気づきがある」

- ・ 地域力とは、地域の問題を自ら発見し、解決していける能力と言えるのではないか。
- ・ 地域が動き出す前提は、危機感や当事者認識を持つこと。
- ・ 地域の長所と短所の双方を認識していること。
- ・ 長所については、地域の強みや宝を自分たちが認識し、周囲に発信していくことが重要。
- ・ 短所については、冷静に自分たちの地域を見つめ、足りないところを認識できることが重要。

「人材がいる」

- ・ 自分たちでできることは、自分たちで行う」という意識を持ったメンバーの集まりであること。
- ・ 地域の課題に真摯に粘り強く取り組める「リーダー」が必要。
- ・ メンバー各々が、自分が主役だと思って取り組める雰囲気をつくれる「コーディネーター」が必要。
- ・ メンバーを陰で支え、何かあったときには調整に当たる「裏方」が必要。
- ・ 自分たちの地域を客観的に評価したり、信念をもって活動方針を定めたり、熱意を持ってどんどん行動できるメンバーがいる。

「つなげる絆や場がある」

- ・ 一人ひとりを認め合い、遠慮のない話し合いができる共同体であること。
- ・ メンバーがそれぞれ役割を担うフラットな共同体であること。
- ・ リーダーやコーディネーターとメンバーの間が信頼関係によって結ばれており、メンバー各自の「やる気」が「大きな力」になっていくこと。
- ・ 「できる人が、できることを、できるだけ」実践するといった雰囲気のもと、誰でもボランティアとして参加できること。
- ・ メンバーを繋ぎ止める交流拠点。

「仕組みがある」

- ・メンバーが情報を共有したり、幅広く情報を収集し発信できる仕組み（情報発信フリーペーパー、メーリングリスト、コミュニティFM等）
- ・コミュニティ組織、NPO、ボランティア等の様々な人や組織が協働できる仕組み。
- ・有償活動と無償活動を峻別し、一部のメンバーに過度に負担をかけない仕組み。
- ・ボランティアから得た協力を「見える化」し、なんらかのインセンティブを設けること。
- ・会費、協賛金、行政からの立ち上げを支援補助金に加え、指定管理やコミュニティビジネス等により財源を確保するなど、経営の視点を持っていること。

「『目標』と『達成』を共有する」

- ・危機感や創意工夫により地域資源を活かしていくという目標をメンバーが共有すること。
- ・小さなことからひとつひとつ確実に結果を出し、成果を積み重ね、メンバーが達成感を得ることができること。

「行政に頼らない」

- ・「カネの切れ目が活動の切れ目」とならないよう、行政に過度に依存せず、活動を行うこと。
- ・きっかけづくりや過度な財政・人的支援など、行政に行政の責任分野での役割を担わせること。
- ・行政による地域の魅力の情報発信など、地域の活動を行政にしっかり応援させること。

「勇気を持って楽しみながら実践する」

- ・目的を共有しながら、その実現のために「楽しみながら実践する」という個々の意識。
- ・「カネ」がないから「知恵」がでる。逆境にあっても、徹底的に知恵を絞り、たゆまぬ努力を惜しまず、挑戦という高い志。
- ・小さな一歩を踏み出す勇気をもって「できることからやってみる」という心構え。
- ・実行しながら考え、失敗をも踏み台にして前進するという姿勢。

「地域力の創造に向けて」平成21年3月（財団法人 自治総合センター）から抜粋